



古田敬徳（画像①）

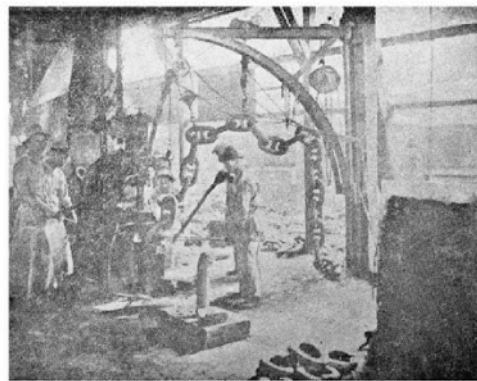


日本で初めての船舶用アンカーチェーンと付属品を製造する『大阪製鎖所』は明治37年（1904）8月に古田敬徳（画像①）が個人経営で大阪

## 鉄のふしぎ？ 博物館

■63

# 「大阪製鎖所」



大阪製鎖所の鍛接鎖（画像②）

## 衣川製鎖工業・衣川良介社長

市西区安治川通りに創業しました。業績は順調に推移し、西区春日出町に新工場を建設、当時わが国における唯一の製鎖工場の地位を占めました。大阪製鎖所は社会的信用と知名度を高めるため、株式会社として、新しく発足します。10人ほどの発起人は大阪を代表する企業、財界人が結集しました。以下は主な発

起人です。山岡順太郎、当時大阪鉄工所（現日立造船前身）社長兼大阪商船副社長、山口力、大阪鉄工所専務取締役、香月錠之助、大阪陶業社長（大阪商船出身）、上田弥兵衛、大阪堂島米穀取引所理事長、範多竜太郎、大阪鉄工所取締役兼大阪商船監査役、高倉作太郎、大阪鉄工所技師長（元海軍造船大監）

この新会社は大阪商船、大阪鉄工所などを中心とした信用と古田敬徳の大阪製鎖所の技術を統合、これを基盤にして、海運・造船業の興隆と日本海軍の軍拡機運に乗じ、製鎖業をより本格的な工業に育成すべく設立が計画されました。集まった資本金で、旧『大阪製鎖所』を買収、改組し、株式会社大阪製鎖所が、正5年、発足しました。この新会社は、日本チェーン製造を買収し、発足早々に当時の二大チェーンメーカーを吸収、統合し、我が国製鎖業界における優位を確立しました。



ヒングレー社の製造風景（画像③）

製鎖所には、海軍艦船用および商船用鎖の注文が殺到。そのころの鎖はすべて鍛造品（画像②）で、その原料はもっぱら英・ヒングレー社の煉鉄を使っていました。大戦の勃発で、このヒングレー煉鉄が入手困難になり、煉鉄研究所を開設、製鎖材料の自給策を講じたのはこの頃です。有名な

【参考資料】  
▽ダイヤモンド社 昭和44年3月初版発行の「産業フロンティア物語 鎖・歯車（大阪製鎖造機）による。」

ちなみに、創業者古田敬徳は大阪築港の築造に関わった初代技術長でした。明治30年（1897）起工、同36年（1903）に築港大橋が完成しました。また、同年に築港大道路と最初の大阪市電が完成し、大阪の海の玄関・築港の基盤が整備されました。同氏は大阪製鎖所の二代目社長を務めました。大阪製鎖所は後に歯車の製造も始めた大阪製鎖造機の製鎖部門です。